

揭示文書

課題名「脳腫瘍幹細胞の BNCT（硼素中性子捕捉療法）薬剤の取り込みの不均一性について」

1. 研究内容

硼素化合物が腫瘍細胞に選択的に集積し、中性子線照射によって破壊するとされている治療法 BNCT（硼素中性子捕捉療法）の研究が行われています。現在使用されている薬剤は BPA（p-Boronophenylalanine）、BSH（Disodium mercapto - undecahydrododecaborate）の2剤ですが、それぞれ、いくつかの問題が挙げられています。本研究では硼素化合物の選択的集積の機序を解析し、膠芽腫治療への応用基盤確立を目的とします。

2. 対象

2015年4月から2021年3月の間に金沢大学附属病院で膠芽腫と診断された患者様のうち、腫瘍摘出術を施行し、脳腫瘍幹細胞を抽出された方を対象とします。

3. 研究の方法

金沢大学附属病院で上記対象の患者様の腫瘍組織から抽出した脳腫瘍幹細胞を本研究の実験および遺伝子・蛋白発現の解析に使用します。

4. プライバシーの保護について

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いた情報を使わせて頂きます。このような情報を除いたものであっても金沢大学附属病院脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためだけに使用し、最長5年間保管管理を行った上で廃棄する予定となっています。

この研究調査の対象となる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意思です。情報の使用を希望されない方はお手数ですが、2016年9月31日までに金沢大学附属病院脳神経外科までご連絡いただけますようお願い致します。また、一旦同意なさる意向でご連絡なさっていない場合についても上記期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。

なお、参加を希望なさらない方について、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。